

学部等名	デザイン学部
------	--------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
デザイン学部は、大学の理念である「生活の質の向上と持続可能な社会への貢献」に基づき、実学としてのデザイン教育を通じて、社会課題に向き合い新たな価値を創出する人材の育成を目的としています。感性と論理、表現と技術を統合し、産学・地域連携型教育を実践。卒業時には「集中力・提案力・実現力・取材力・発想力・チーム力」の6つの力を身につけた、創造的かつ実践的なデザイン人材を輩出します。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
デザイン学部では、社会的ニーズや地域課題を積極的に教育に取り入れ、実践的な学びを通じて人材育成を行っています。東京都大田区など地域と連携し、行政や企業の課題に対し、学生がデザインの視点で課題発見・提案・実装する授業やプロジェクトを展開。産学連携による共創型教育により、社会と主体的に関わりながら、新たな価値を創出できるデザイン人材の育成を目指しています。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
デザイン学部では、大学のディプロマポリシーに基づき、全授業のシラバスに教育目標を明示しています。一方で、学部独自の「6つの力（集中力・提案力・実現力・取材力・発想力・チーム力）」は、学部 Web サイト等で広く対外的に発信され、専門的な教育目標として位置付けられています。特に地域や企業との社会連携活動においては、課題解決や価値創出を目的に、6つの力を行動指針として実装する教育を展開し、学内外で一貫した周知と実践を行っています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

--

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

デザイン学部では、学部内に設けられた教務委員会をはじめ、各コース、演習単位での連絡会等を通じて、教育内容や運営に関する課題を継続的に把握している。これらの場で共有された課題や改善点は、定期的開催される意見交換の場（アゴラ等）において教員間で協議され、教育改善に向けた方策の検討および共有が行われている。複数の委員会や会議体を連動させることで、教育の質を点検・改善する内部質保証の体制を機能させている。
--

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

デザイン学部では、教務委員会や各コース、演習単位での連絡会等を通じて、教育・運営に関する自己点検・評価を継続的に実施している。授業運営や学生の修学状況、カリキュラム上の課題については、日常的な情報共有に加え、定期的開催される意見交換の場（アゴラ等）において教員間で協議されている。これらの議論を通じて抽出された課題や改善点は学部内で共有され、次年度以降の授業改善や運営の見直しに反映することで、教育の質の向上につなげている。
--

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

デザイン学部では、IR センターとの組織的な連携体制は設けていないものの、学部内に配置された IR センター委員を通じて、必要に応じた情報共有を行っている。大学全体で実施されている授業評価アンケートについては、各教員が担当授業ごとに結果を確認し、学生の学修状況や意見を踏まえた授業改善に活用している。これらのデータは、次年度の授業内容や指導方法の見直しに反映され、学生一人ひとりに対するきめ細かな教育的配慮につなげることで、教育の質向上に資するものとなっている。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。
--

デザイン学部では、授業評価アンケートや AG 面談など、日常的な学生との対話を通じて、学生の意見や要望を把握している。また、産学・地域連携活動や社会連携実習等を通じて、学外関係者からの意見や助言を得る機会を設けている。これらの声は、地域連携委員会での活動報告書による共有や意見交換の場（アゴラ等）において共有・検討され、教育内容や指導方法、研究活動の改善に反映されている。こうした取り組みにより、学生および学外関係者の視点を教育研究の向上に生かす体制の構築に努めている。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

デザイン学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーを策定し、教育課程の基本方針として位置づけている。これらのポリシーは、大学 Web サイト、学生ポータルサイト（学生便覧）を通じて学生および教職員に周知している。各ポリシーは、教育課程の編成や授業内容、学修成果の評価、入学者受入れの方針に反映されており、教育の一貫性と体系性の確保、ならびに教育の質保証と継続的改善に活用されている。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

デザイン学部では、カリキュラム・ポリシーに基づき、基礎から応用、実践へと段階的に学修を深める体系的な教育課程を編成・実施している。1 年次では、感性と基礎的なデザインスキルを養う基礎科目・演習を通じて学修の土台を形成し、2 年次以降は専門性を高める演習や社会連携型科目を配置している。さらに、3 年次後期からは、各自の専門性をもとに社会と向き合うデザイン研究へと展開する。講義と演習を有機的に組み合わせることで、課題発見力、表現力、実践的な問題解決能力を段階的に育成し、社会で求められるデザイン人材の育成を図っている。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

デザイン学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、単位認定基準および進級・卒業要件を明確に定め、学修成果の評価を行っている。これらの基準は、学生ポータル（学生便覧）、シラバス等を通じて学生および教職員に周知されている。各科目においては、到達目標や評価基準・方法を事前に明示し、成績評価はそれに基づき適切かつ厳格に実施している。これにより、学修成果の可視化を図るとともに、教育の質保証に資する評価体制を整備している。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

デザイン学部では、演習科目を中心に、アクティブラーニングや課題解決型学習を積極的に取り入れ、学生の主体的な学びを促進している。授業では、グループワークやディスカッション、フィールドワーク、発表・フィードバックを通じて、課題発見から提案、実装に至るプロセスを重視している。これにより、学生は実践的な思考力や表現力、協働・共創力を身につけ、社会で求められる課題解決能力の向上につなげている。こうした教授方法は、学修意欲の向上と教育効果の深化に寄与している。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

デザイン学部では、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーに基づき、講義・演習科目を通じて学修成果を多面的に把握・評価している。各科目では、シラバスに到達目標および評価方法を明示し、レポート、作品制作、発表、フィードバック等を組み合わせて学修成果を適切に評価している。さらに、専門演習や専門／卒業研究においては、複数教員による指導・評価を通じて、専門性や総合的な実践力を確認している。これらの評価を通じて、教育成果の可視化と教育の質保証を図っている。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

デザイン学部では、教員の採用および昇格について、大学が定める人事に関する規程および評価基準に基づき、適切に運用している。採用・昇任にあたっては、研究業績、教育実績、学部・大学運営への貢献等を総合的に評価している。これらの基準は学内で共有されており、審査は選考委員会による審議を経て、公正かつ厳正に実施されている。学部としても、人事に関する決定は全

て教授会での合意を得ながら運営方針との整合を重視し、教育・研究の質の維持・向上に資する教員体制の整備に努めている。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

デザイン学部では、大学全体の FD 方針に基づき、教育の質向上を目的とした FD 活動に継続的に取り組んでいる。大学主催の FD 研修や説明会（全学教職員会）に教員が参加するほか、学部内では教務委員会やコース、演習単位での連絡会、意見交換の場（アゴラ等）を通じて、授業運営や指導方法、教育課題の共有と改善に関する議論を行っている。これらの活動を通じて、教員相互の知見を共有し、教育実践の質的向上を図っている。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

デザイン学部では、教員の教育・研究活動の成果について、大学が実施する授業評価アンケートや業績評価等を通じて把握している。教育活動については、授業評価結果を各教員が確認し、授業内容や指導方法の改善に活用している。研究活動については、研究業績や社会連携活動、学内外での貢献状況をもとに評価が行われている。これらの評価結果は、FD 活動や人事評価に反映され、教員の教育力・研究力の向上および学部全体の教育研究の質的向上につなげている。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特色）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

デザイン学部では、「実学によるデザイン教育」を教育・研究の核とし、感性とスキルを融合した実践的な学びを重視している。社会課題や地域課題、産業界のニーズと向き合いながら、課題発見から提案、実装に至る一連のプロセスをデザインとして捉え、4つのコースでの学びを基本としながら、プロジェクト内容により分野横断的に学修を行う点を特色としている。特に、社

会連携型授業やプロジェクト活動を通じて、他者と協働しながら価値を創出する力の育成に注力しており、社会と接続した実践的なデザイン人材の育成を目指している。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

デザイン学部では、開設当初より「実学」を軸としたデザイン教育を展開し、感性とスキルを融合した実践的なカリキュラムを特色としている。基礎段階から演習・制作を重視し、社会連携や実践的課題へと段階的に発展させることで、早期から社会との接続を意識した学修を可能としている。また、1学部4コース体制のもと、視覚・情報・工業・空間といった多様なデザイン領域を段階的に学べる点も大きな特徴である。プロジェクト型の活動ではコースの枠を越えた協働制作を通じて、課題発見から実装までを一貫して経験できる教育環境は、他大学の学科分立型教育とは異なる本学部ならではの強みである。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。